



世界的なパンミックの危機とその後における 『グローバル・アジェンダ 2020～2030』の強化

改訂版 グローバルな協議

『ソーシャルワークと社会開発のためのグローバル・アジェンダ』に関わる3つのグローバル・パートナーは、2020-2030年の10年間にむけたテーマ／柱を策定し、2020年の世界会議で結論をえる予定であることを2018年に発表した。新型コロナウイルスによるパンデミックの影響を受け、この協議の取り決めに一部変更することが適切である。

『ソーシャルワークと社会開発のためのグローバル・アジェンダ』は、3つのグローバル組織のアドボカシーと行動のための主要なプラットフォームである。それは、ソーシャルワークと社会開発の実践家および教育者が、社会的、経済的、政治的、環境的な分野における優先事項について、団結、推進し、意見を述べ、明確化を図り、合意するためのまたとないう機会を提供する。

3つの組織は、新型コロナウイルスによるパンデミックと、突如として生じた大きな社会的、経済的、政治的変化を考慮し、『グローバル・アジェンダ』の第2次10年計画を策定するためのプロセスについて検討してきた。長期的な影響は依然として計り知れないが、感染拡大が社会的・経済的生活を著しく混乱させ、今後もそれが継続することは明らかである。(アフターコロナの)世界が以前と同じでないことを私達は認識しなければならない。私たちは皆、これらの前例のない混乱を考慮し、今後10年間を網羅するグローバル・アジェンダのテーマが、変化する状況をふまえたものであることを確認する必要がある。

3つのグローバル組織は、10年間を通じて『ソーシャルワークと社会開発のためのグローバル・アジェンダ』に共同して取り組むことを決定している。このコミットメントは、パンデミックの影響への対応のみならず、私たちの組織とメンバーの中核的な価値観と取り組むべき優先事項を支持し、促進する責務にも対応している。グローバル・アジェンダは、私たちの3つの組織の主な関心事をまとめたものであり、現在の世界的な社会的・経済的危機の中でのアドボカシーと行動の基礎として、さらに重要なものとなっている。

世界的な危機と、世界的なパンデミックの影響に対応する必要があることを考えると、多くの個人や組織が、今後10年間のテーマについて合意に達するために必要なプロセスに時間とエネルギーを割くことは不可能であろう。政治、経済、社会関係の将来の姿について、多くの不確実要素があるため、それを現段階で行うことにはリスクがある。



しかしながら、3つの組織は、これまでのパンデミックの経験は、『グローバル・アジェンダ 2010-2020』のメッセージの妥当性と適切性を確認し、あらためて強調することを確信する。ソーシャルワークの世界的な定義と共有された倫理原則は有効であり、この新しい文脈の中で積極的に推進されなければならない。

私たちはまた、『グローバル・アジェンダ 2010-2020』の4つのテーマの継続的な関連性を認識している。

- 社会的・経済的平等の促進
- 人々の尊厳と価値を高める
- 地域と環境の持続可能性の推進
- 人間関係の重要性の認識強化

これらのテーマが重要であることに変わりはないが、国際社会は、新しい10年と新しい環境の中で意味のあるテーマの構成を考え、特定する必要がある。

パンデミックによる世界的なショックが長期化し、おそらく大きな変化をもたらすものになることは間違いない。ショックの性質や規模は各国の状況に応じて異なり、経済活動や貧困のレベル、社会関係に影響を与えるだろう。このショックは、過去のグローバル・アジェンダ報告書やその他多くの文書、そして国連や関連機関の報告書において、ソーシャルワーカーやその他の人々によって特定された社会的不平等や脆弱性に対処しないグローバルな失策によって、より深刻なものとなるだろう。

パンデミックがもたらすこれらおよびその他の多くの結末は、新たな状況を把握し、次の10年に向けたグローバル・アジェンダのテーマの詳細な設定にむけて、省察と協議のための時間を確保する必要性を示している。

グローバルな連帯重要性を再認識する

パンデミックが、グローバルな相互のつながりの現実と社会的連帯の価値を浮き彫りにしたことは、すでに明らかである。パンデミックは国境に関わらない。多くの人々にとって、地理的にも、家族的にみても、あるいは知的な意味でも、主な社会的支援は身近なコミュニティであり続けている。公共サービスの価値は、多くの国々で新たな熱意をもって捉えられている。コミュニティ、国、地域、そして世界全体の社会的連帯は、より現実的なものとなっているが、同時にそれが試されてもいる。集団としての私達の未来をまもるグローバルな連帯は、喫緊のニーズなのである。



3つのグローバル・パートナー組織は、「グローバル・アジェンダ 2020-2030」の基礎としての連帯の価値を認識するだけでなく、2020-2022年のグローバル・アジェンダの具体的な焦点として、新型コロナウイルスによるパンデミックの影響とそこからの学びだけでなく、経済的・社会的な不平等、社会保障の失敗、継続的な社会的な不公正の長年にわたる存在を認識することを提起している。

社会的連帯についての省察

新型コロナウイルスによるパンデミックの経験は、人権、平等、社会正義を尊重する社会組織が必要であることを私たちに示している。また、私達は、この危機に対する各国政府の迅速な社会的・経済的対応の中で、異なる形態の組織が可能であり、望ましいことを認識している。

3組織は、研究と実践の経験に基づき、国際レベルのすべての社会的勢力が集団的に関与し、繁栄する社会のために共に働くならば、このような異なる社会秩序を生み出すことができることを確信している。

人類の歴史の中でこの時期に、未曾有の世界的なパンデミックがソーシャルメディアを通じて世界中で報道されている中で、グローバルなレベルでの社会生活の相互関係が、単なる学術的な議論の対象以上のものであることは明白である。それは世界中の何百万人もの人々の日常生活に影響を与えている。あるレベルでは、家族やグループレベルでの有機的な連帯の必要性が示されている一方で、別のレベルでは、グローバルで多層的な連帯の必要性が、すべての人の健康、安全、健康に不可欠であることを示している。

歴史的にみて例外といえる日々の中で、私たちのグローバルな組織は、あらゆるレベルであらゆる形態の連帯に言及し、明確化、概念化し、実践するために協力していくことが重要である。

連帯は多様な形態をとり、異なる文化の中で異なる理解をされている。例えば、基本的な人間の連帯には、共通の目的と展望を共有する利害関係者、家族、友人などが関与することがあり、また、コミュニティ組織や専門機関などにおいても連帯を生み出すことができる。パンデミックによる危機の文脈で連帯を理解する方法の例としては、以下のようなものがある。

グローバルな連帯: 世界のコミュニティは、これまで以上にパンデミックと闘うために団結し、一部の顕著な例外を除いて、パンデミックの蔓延を封じ込め、制御するための集団的



な責任を示している。次の段階では、パンデミックで深刻な打撃を受けた国々の経済の再建を可能にするために、この連帯を維持しなければならない。このことは、多国間主義と平和構築の重要性を浮き彫りにしている。

地域社会の連帯と国家の役割：公的な国家機関は、地域社会の連帯を構築し、維持する上で重要な役割を果たすことができるが、保健、福祉、社会保障のメカニズムが機能不全となったり、限られた環境下では、効果をあげない。パンデミックへの対応は、すべての人々が経済的、健康上および福祉的な保障へのアクセスをもつために、国が果たすべき重要な役割を示している。

技術と知識の連帯：知識と技術へのグローバルなアクセスの非対称性は、世界的な危機に対応するための連帯と戦略を損なっている。この危機は、ネットワーク化されたグローバル社会においては、知識の共有と技術的な支援によって脆弱性を軽減できることを証明した。知識社会においては、知識の正義なくして社会的正義は担保できない。

世代間の連帯：地球の物的資源の乱用、自然環境への敬意の欠如、気候変動の脅威に断固とした行動を取らないことに顕著に見られるように、世代間の資源配分には不平等が存在する。社会的連帯は環境的連帯を必要とする。

地域社会の連帯内のすべての人々を尊重すること：既存の社会的分断は、危機的状況下で悪化する。コミュニティ内およびコミュニティ間の連帯は、共有された脆弱性に対処するための不可欠な前提条件である。連帯はまた、人種差別、スティグマ化、孤立、差別に挑戦することも意味する。このような連帯は、市民社会組織、企業組織、および社会セクターの他のアクターによって維持されることができる。連帯は、人権尊重を促進し、仲介するために必要である。連帯を理解し、説明するための他のアプローチも可能であり、相互に排他的ではない。

今から 2020 年 8 月末までの間に、(我々) グローバル組織は、2020 年の世界ソーシャルワークデーや、2022 年の世界的なイベントにつながる 2020-2022 年の間の国内および国際的な組織活動の焦点となりうる連帯の要素について、人々に提案を提起するよう求める。あなたにとって「連帯」とは何を意味するのか？

ソーシャルワークと社会開発のためのグローバル・アジェンダ 2020-22 年

この 10 年の最初の 2 年間に提案されたテーマは、ソーシャルワークや社会政策の基盤



として、またパンデミックへの対応における世界規模の経験として、社会的連帯の重要性を認識するものである。

テーマの候補 2020-22

世界ソーシャルワーク・デーのため、そして地域会議や世界会議にむけたグローバル・アジェンダのテーマ／柱は、すべての国や状況で使用できる十分に一般的なものでなければならないが、すべてのローカルな状況に対しても使用できるものでもなくてはならない。2年間にわたり、国内および国際的なキャンペーンのメッセージの基礎として、明確な記述が必要である。テーマは、ポスターやウェブサイトで使用できるように、短い言葉で表現しなければならない。

協議のため、また議論を刺激するために、以下の選択肢を提供する。
以下の中からどれかを選ぶか、または代替案があれば提案していただきたい。

- A あらゆる形態の連帯の追求と具現化
- B 人びとの間のつながりの促進と連帯の強化
- C グローバルなつながりの認識と社会的連帯感の醸成

グローバル・アジェンダ 2022-2030

10年間にわたるグローバル・アジェンダは、連帯の概念に基づいているが、世界ソーシャルワーク・デー、会議、出版物、アドボカシーの焦点として、統合されつつも別のテーマを設定する必要がある。IASSW、ICSW および IFSW の意図は、残りの期間、各2年間をカバーする4つのテーマについて合意することである。これらのテーマは、2022年半ばまでに承認される予定である。したがって、これらのテーマに関する協議は、今後24ヶ月にわたって継続されることになる。協議のためのプロセスは、今後数ヶ月間にわたり行われ、すべての関係者と共有される予定である。

目的は、世界に関連のあるテーマ別の柱を設定することである。各柱は、サービス利用者のさまざまなグループと、サブテーマとして列挙できる社会問題の範囲に関連するものでなければならない。

協議

以上にもとづき、以下について意見を求める。



・2020-22年の連帯のテーマの単一の記述（上記のA、B、Cのいずれか）を支持するか、または異なる表現を提案してほしい。

・2020-22年に向けて提案されている連帯の記述や要素について、ご意見・ご感想をお寄せいただきたい。あなたにとって連帯とは何を意味するのか？

・『ソーシャルワークと社会開発のためのグローバル・アジェンダ 2022-2030』の焦点となる、各2年間のテーマ／柱を提案していただきたい。

あなたのフィードバックを、グローバル・アジェンダ検討委員会（Global Agenda Task Force）あて、特設電子メール・アドレス globalagendaswsd@gmail.com まで送ってください。

2020年5月29日

アベ・タッセ & デビッド・N・ジョーンズ（グローバル・アジェンダ・コーディネーター）

<付録>

パンデミックの影響-当初報告

世界的なパンデミックがもたらした影響はすでに報告されており、その影響の大きさを示している。これらの要因やその他の要因は、『グローバル・アジェンダ』に関する議論や、専門家による省察の焦点に影響を与えることになるであろう。なお、以下の影響は、網羅的なものではない。

すべての国ですでに報告されているウイルスの影響

- ・多数の死者を出し、その結果、社会的な集いに対する不安、集団的な悲しみ、個人的な脆弱性への不安が増大した。
- ・医療と社会サービスの弱点が露呈している。
- ・マスクの着用や社会的な状況での個人的な接触の回避など、リスクに対する社会的な態度の変化
- ・スティグマ化、非難、地域社会と国との対立
- ・水、食料、避難所などの基本的な生活必需品に対する重大な脅威
- ・緊急事態法と政府の権限における人権への重大な挑戦
- ・雇用と企業活動の停滞を伴う大規模な経済的混乱で、ほとんどの国で効果的な社会保障制



度がないことが露呈している。

- ・経済活動の変化
- ・すべての段階における学校の閉鎖から多くの国で教育崩壊が起きている
- ・ソーシャルワークの教育・訓練への混乱と、特にデジタルデバイスへのアクセスに関連して不平等を悪化させる傾向のある、短期間の通知による新しい教育方法の導入や拡大。
- ・新しい形態のコミュニティの連帯と相互扶助の経験
- ・社会的な集いによらない新しい形態の宗教儀式
- ・国家債務の大幅な増加

経済的に発展した国で既にみられているウイルスの影響

- ・多くの国で新しい形態の経済構造が生まれ、これには、実質的には国家が支給する最低所得の導入や、いくつかの国での社会保障費の大幅な増加（多くの場合、社会保障費の大幅な増加）が含まれる。
- ・伝統的に低賃金で身分の低い多くのキーワーカーの重要性を新たに認識することを含め、仕事に対する態度や経験が変わった。
- ・一部では在宅勤務が増加し、勤務形態が変更された。
- ・地元の商店、スーパー、ショッピングセンターから、ネット通販への切り替えが増加した。
- ・電話やオンラインでの医療・社会的な相談の大幅な増加、対面での活動への依存度の低下などが、一般市民と一部の専門家との関係を変化させた。

起こりうる未来の世界的な影響

- ・すべての国における、ソーシャル・ディスタンスと隔離に起因する心的外傷後ストレス
- ・経済的、社会的混乱の帰結としていくつかの国で起きている政治的動乱
- ・グローバル化への反発、ナショナリズムと外国人への恐怖心の増大、多国間機関への挑戦を含む国境管理の強化
- ・グローバルな相互関係の現実を認識し、グローバルな制度へのコミットメントの強化
- ・経済成長よりも健康・福祉保障の重視